

# 「岩石鉱物科学」投稿規定

(2025年7月28日改正)

## はじめに

「岩石鉱物科学」は、鉱物科学およびこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかることを目的として一般社団法人日本鉱物科学会が発行する和文誌である。本誌の一般的投稿についての指針を以下に規定する。本誌は国内誌である事に鑑み、編集委員長をはじめ、各編集委員は各種依頼原稿のとりまとめを積極的に進めてもらう事が望まれる。また、会員は解説原稿や新たな情報が得られた場合、編集委員と意見交換をしたり、積極的に編集事務局に原稿を送付したりする事が望まれる。さらに、依頼原稿に限り、母国語が日本語でない著者については、英語での投稿も認められる。なお、2022年発行から、電子ジャーナルのみの発行となり、本文PDFには無料でカラー図、カラ一写真の掲載ができる。

## I. 一般事項

### 1. 原稿の種類

- a. 原著論文 (Original article) (投稿原稿)
- b. 短報 (Short note) (投稿原稿)
- c. 総説 (Review) (依頼原稿)
- d. 解説・資料 (Short Review & Scientific Communication) (依頼及び投稿原稿)
- e. 討論 (Discussion) (投稿原稿)
- f. 鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ (Key Points for Technical Skills in Analyzing Minerals and Experimental Works) (依頼及び投稿原稿)
- g. 最近の研究から (Recent Advances) (依頼原稿)
- h. 日本新産鉱物情報 (New Minerals and Occurrences in Japan), (依頼原稿)
- i. 博物館紹介 (Guide for Museums in Japan) (依頼原稿)
- j. フィールド紹介 (Field Guide for Mineralogical and Petrological) (依頼原稿)
- k. 博士課程学生・若手研究紹介 (Introductions to Students and Early Career Researchers) (依頼原稿)
- l. その他 編集委員会が掲載可能と認めたもの

### 2. 執筆者

原著論文・短報・討論の投稿は著者の中に学会会員が含まれている場合に限るが、他の種類の原稿はその限りではない。

### 3. 投稿手続

投稿原稿は電子メールによる添付ファイルでの投稿とする。  
「II. 投稿原稿」に従い投稿原稿を作成し投稿すること。

#### 電子メールによる投稿

- a. 原稿送信先 : gkk\_editorial@spa.nifty.com  
送信メールのメッセージには、原稿種類、タイトル、著者名、投稿者連絡先と共に投稿論文添付ファイル名を記載すること。  
但し、本文、図、表の合計ファイルサイズはできるだけ **11MB** 以内にすること。依頼原稿の場合も、編集委員に提出するのではなく、必ず上記のアドレスに送信すること。

#### b. 投稿ファイル形態 :

本文 : 本文 (原稿種類、和英タイトル、著者名、著者所属、英文アブストラクト、キーワード、引用文献、図 caption、表タイトル、表脚注など含む) を Word で作成し、投稿時は

Word または PDF で提出する。

図 : 図番号、タイトル、説明を記載した各図を PDF、GIF、JPG、TIF のいずれかのファイルで提出する。なお、電子ジャーナル発行では、本文 PDF に無料でカラー図を掲載できるので、カラー図の提出を推奨する。図の画像は印刷上支障のないように鮮明な解像度(300-600 dpi)で作成すること。  
但し、全図の合計ファイルサイズはできるだけ **10MB** 以内にすること。

表 : 表(表番号、タイトル、脚注記載を含む)を Excel または WORD の表で作成し、投稿時には各表を表番号順に 1 つの PDF にまとめて提出する。

## 4. 文書と表のファイル形式

本文は Word、表は Excel または WORD の表で作成する。

## 5. 査読とレフェリー

原著論文、短報は 2 名のレフェリーによる査読を行い、掲載可否と修正の要不要を決定する。その他の原稿については最低 1 名以上のレフェリーによる査読を行う。

## II. 投稿原稿

### 1. 原稿の掲載頁制限

原稿 (図表含む) の本誌掲載頁を以下のように制限する。  
但し、本誌掲載 1 頁は全角約 2600 字。

- a. 原著論文 : 掲載頁 18 頁以内
- b. 短 報 : 掲載頁 4 頁以内
- c. 総 説 : 掲載頁 12 頁以内
- d. 解説・資料 : 掲載頁 8 頁以内
- e. 討 論 : 掲載頁 2 頁以内
- f. 鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ:掲載頁 8 頁以内
- g. 最近の研究から : 掲載頁 4 頁以内
- h. 日本新産鉱物情報 : 掲載頁 4 頁以内
- i. 博物館紹介 : 掲載頁 4 頁以内
- j. フィールド紹介 : 掲載頁 8 頁以内
- k. 博士課程学生・若手研究紹介 : 掲載頁 4 頁以内

### 2. 本文の作成

本文は下記ページ設定に従い Word で作成する。

- a. 余白 : A4 判用紙 上下 3 cm, 左右 2.5 cm
- b. 本文使用文字 : 日本語は明朝系 12 ポイント、欧文は Times Series 12 ポイント
- c. 行間間隔 : 1.5 行
- d. 本文ページには行番号とページ番号を付す。

### 3. 本文の体裁

以下本文の体裁は、原則的に「原著論文、短報、総説、解説・資料、討論、鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ、最近の研究から、博物館紹介、フィールド紹介、博士課程学生・若手研究紹介」に適用される。

- a. 原稿の 1 頁には原稿種類、タイトル、タイトルの英訳、著者名、著者名のローマ字書きを付け、脚注に著者の所属、住所とそれらの英訳、電子メールアドレス (Corresponding author) を明記する。
- b. 「原著論文、短報、総説、解説・資料、鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ、最近の研究から、討論」には必ず 300 語以内の英文アブストラクトをつける。
- c. 英文アブストラクトの下に英語でキーワードをつける (V. キーワードのつけ方 参照)。

- d. 本文の章一節一項一目は、**I-1-(1)-a** と段落番号を付す。
- e. 本文は口語体とし、新仮名遣いを用い、なるべく常用漢字を使用する。
- f. 数量をあらわす数字はアラビヤ数字とする。
- g. 単位記号はなるべく SI 単位系を用いる(Å は例外)。
- h. イタリックで印刷すべき字句(ギリシャ文字、変数文字)はイタリックで記載する。
- i. 本文中に外国語をはさむことはなるべくさける。適当な訳語のない専門語は原綴りで表す。場合によってはカタカナ書きとする。
- j. 鉱物名の表記は、以下の方針に従うことを推奨する。本文中では、初出時に和名と英語名を併記する。以降は英語名の使用を避け、和名を用いる。広く使用されている和名が存在する場合は、原則として漢字表記を用いる。漢字が読みづらいと判断される場合は、ひらがなでの表記も可とする。和名が存在していても広く使用されていない場合、または漢字表記がない場合、あるいは和名が存在しない場合は、名前の由来になった原語の発音に近い片仮名表記を用いることを基本とする。なお、通称や別称の使用は避ける。また、本文中では鉱物名の表記を統一し、異なる表記の混在は避ける。
- k. 固有名詞で読み誤るおそれのあるものには、ふりがな(ルビ)をつける。
- l. 原稿中の隕石名は隕石学会で認められたもののみとする。なお、隕石名は以下のウェブサイトで確認できる。  
<http://www.lpi.usra.edu/meteor/metbull.php>
- m. 結晶系の名称あるいはそれに基づく鉱物・岩石名に関しては鉱物科学に関する用語検討委員会の答申に従うものとする。答申は岩石鉱物科学 Vol. 44 (2015), No. 6, p. 345-346 に掲載されている。WEB : [http://jams.la.coocan.jp/Ortho\\_report.pdf](http://jams.la.coocan.jp/Ortho_report.pdf)
- n. 本文の文字色は原則として黒色とするが、編集委員会が必要と認める時はカラーを使用することができる。ただし、カラー文字を使用する場合の追加費用は著者負担とする。

#### 4. 表・図・写真的体裁

- (1) 表は以下に従って作成すること。
  - a. Word の表または Excel で作成する。
  - b. Table 1, 2, 3 … と番号を付す。
  - c. 表中に使用する文字、数字は Times 系、9 ポイントの普通文字を使用し、ギリシャ文字、変数文字以外にはイタリックとボールドを使用しない。
  - d. 罫線は数本の横線のみとして線の太さは 0.5 ポイント
  - e. 表は印刷所で版組して作成するので、受理後の初校ゲラ 著者校正では著者による確認が必要。
  - f. 英文で作成した表のタイトルと脚注説明を各表に明記する。さらに本文原稿引用文献の次の欄に Table 1, 2, 3 … として記載する。
- (2) 図は以下に従って作成すること。
  - a. 高品位の鮮明な図で、モノクロ、カラー図(無料)とも解像度 300-600 dpi で作成すること。
  - b. 図の下に Fig. 1, 2, 3 … の番号と英文の説明文も明記する。
  - c. 図中の文字は英語で記載し、文字や記号の大きさ、線の太さなど印刷時に縮小しても判読できるよう考慮して作成すること。
  - d. 図の大きさは本誌掲載誌面半頁から 1 頁以内とする。
  - e. 写真は関連の複数写真を個別扱いはしないで、A4 判 1 頁に見易くまとめ、各写真には a, b, c … を付し、他の図同様に図番号を付す。
  - f. 英文の図のタイトルと説明文を本文原稿引用文献の次の欄に

も Fig. 1, 2, 3 … として記載する。

#### 5. 引用文献

- (1) 本文中の引用文献は姓(年)または(姓、年)とする。例えば、「Robinson (1970)によれば、…」もしくは「…である(Robinson, 1970)。」とする。
- (2) 本文末尾にまとめられる引用文献は著者名のアルファベット順にならべ著者名(年)：表題、掲載誌、巻、頁、とし、同一著者の同一年の 2 つ以上の文献を引用する場合は、a, b, … をつける。例えば、(1962a, 1962b)とする。
- (3) 複数著者の場合、発行年代順ではなく、第 2 著者以降のアルファベット順に並べる。
- (4) 電子ジャーナルで公開されている引用論文には、できる限り URL などのリンク先を論文の末尾に記載すること。
- (5) 以下の記載例にならう。

- Angel, R.J., Alvaro, M., Miletich, R. and Nestola, F. (2017a) A simple and generalised P-T-V EoS for continuous phase transitions, implemented in EoSFit and applied to quartz. Contributions to Mineralogy and Petrology, 172, 1–15.  
<https://doi.org/10.1007/s00410-017-1349-x>
- Angel, R.J., Mazzucchelli, M.L., Alvaro, M. and Nestola, F. (2017b) EoSFit-Pinc: A simple GUI for host-inclusion elastic thermobarometry. American Mineralogist, 102, 1957–1960.  
<http://dx.doi.org/10.2138/am-2017-6190>
- Bonazzi, P. and Menchetti, S. (2004) Manganese in monoclinic members of the epidote group: Piemontite and related minerals. In Epidotes (Liebscher, A. and Franz, G. Eds.). pp. 628, Reviews in Mineralogy and Geochemistry, 56, Mineralogical Society of America, Washington, D.C., 495–552.  
<https://doi.org/10.2138/gsrmg.56.1.495>
- Davis, M.J. and Ihinger, P.D. (1998) Heterogeneous crystal nucleation on bubbles in silicate melt. American Mineralogist, 83, 1008–1015.  
[http://www.minsocam.org/msa/AmMin/TOC/Articles\\_Free/1998/Davis\\_p1008-1015\\_98.pdf](http://www.minsocam.org/msa/AmMin/TOC/Articles_Free/1998/Davis_p1008-1015_98.pdf) または  
<https://doi.org/10.2138/am-1998-9-1008>
- Deer, W.A., Howie, R.A. and Zussman, J. (1962) Rock forming minerals, 1. Ortho- and ring silicates. pp. 333, Longmans, London.
- 久野 久 (1954) 火山及び火山岩. pp. 255, 岩波書店, 東京.
- 神津倣祐, 益田峰一, 上田潤一 (1929) 方解石加熱に因る軸率, 面角及び容積の変化並びに其解離現象. 岩石礦物礦床學, 1, 1–15.  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/ganko1929/1/1/1\\_1/\\_1/\\_pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ganko1929/1/1/1_1/_1/_pdf-char/ja) または <https://doi.org/10.2465/ganko1929.1.1>
- Marschall, H.R., Ludwig, T., Altherr, R., Kalt, A. and Tonarini, S. (2006) Syros metasomatic tourmaline: evidence for very high- $\delta^{11}B$  fluids in subduction zones. Journal of Petrology, 47, 1915–1942. <https://doi.org/10.1093/petrology/egl031>
- Pommier, A., Kohlstedt, D.L., Hansen, L.N., Mackwell, S., et al. (2018) Transport properties of olivine grain boundaries from electrical conductivity experiments. Contributions to Mineralogy and Petrology, 173, 41. <https://doi.org/10.1007/s00410-018-1468-z>
- Pommier, A., Leinenweber, K. and Tasaka, M. (2015) Experimental Investigation of the electrical behavior of olivine during partial melting under pressure and application to the Lunar mantle. Earth and Planetary Science Letters, 425, 242–255.  
<https://doi.org/10.1016/j.epsl.2015.05.052>
- Rubatto, D. (2002) Zircon trace element geochemistry: partitioning with garnet and the link between U–Pb ages and metamorphism. Chemical Geology, 184, 123–138. [https://doi.org/10.1016/S0009-2541\(01\)00355-2](https://doi.org/10.1016/S0009-2541(01)00355-2)
- Sakaguchi, I., Kouketsu, Y., Michibayashi, K. and Wallis, S.R. (2020)–

Attenuated total reflection infrared (ATR-IR) spectroscopy of antigorite, chrysotile, and lizardite. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 115, 303–312. <https://doi.org/10.2465/jmps.190807>

Tripathi, V.S. (1983) Uranium (VI) transport modelling: Geochemical data and submodels. pp.297, Ph.D.thesis, Stanford University, Palo Alto, California.

(6) 引用文献欄の著者名の省略は、著者が 5 名までの論文は全著者名を記載し、6名以上の場合は第 1 著者名から第 4 著者名までを記載し、以降は「他」または「et al.」として省略する。  
著者 A, 著者 B, 著者 C, 著者 D, 他 (2024) 論文タイトル. 雑誌名, 卷, 頁.

Author, A., Author, B., Author, C., Author, D., et al. (2019) Title of the paper. Journal name, Volume, Pages.

### III. 受理原稿提出

論文が受理されたら、以下の指定ファイル形式で電子メールに添付して編集委員会宛へ提出すること。なお、本文、図、表の合計ファイルサイズはできるだけ **11MB** 以内にすること。

(1) 本文 : Word ファイル

(2) 図 : PDF, GIF, JPG, TIF, AI いずれかのファイル。

電子ジャーナル発行では、本文 PDF に無料でカラー図を印刷できるので、鮮明な解像度( 300-600 dpi )のファイルを提出すること。 但し、全図の合計ファイルサイズはできるだけ 10MB 以内にすること。

(3) 表 : Excel ファイルまたは WORD の表ファイル。  
なお、表を画像化して WORD に挿入した表は受け付けない。

### IV. 著作権

本誌に掲載された論文等の著作権は、一般社団法人日本鉱物科学会にある。

### V. キーワードのつけ方

著者がつけ、編集委員会が補う。

- a. 英語で記載する。
- b. 一般化した短い術語を用いる。
- c. 数は 3 語以上、10 語以下とする。
- d. 原則として単数名詞を用いて、前置詞の使用および形容詞形の使用は避ける。
- e. 以下の項目が含まれることが望ましい。対象物、学問分野、

手法、データの種類、作用、機能、現象、概念、地域、地質時代

f. 原則として、その重要度に従って配列し、先頭に最も重要度の高い語彙を置く。

### VI. 著者校正

初校は著者に回すが、元の原稿を離れての文章修正は許されない。また指定の期限までに返却されない時は、編集委員会に校正を一任したものとする。なお、初校での図表の差替えや本文ミスの訂正にかかる費用は著者（依頼原稿の日本鉱物科学会会員著者を含む）の負担とする。

### VII. ページチャージ

著者は、掲載 1 頁あたり 2,500 円のページチャージを負担して、受理された論文を岩石鉱物科学(電子ジャーナル)に掲載することができる。但し、

- (1) 学生だけの著者で学振経費などの予算が無い場合はページチャージの負担はない。
- (2) 運営交付金、科研費、学振経費などのある一般の著者とその共著者、そして学振など予算を持つ学生で上記(1)に該当しない学生はページチャージを負担する。
- (3) 運営交付金、科研費、学振経費などがない日本鉱物科学会会員著者(シニア会員以上の会員)の場合、希望なら、ページチャージの負担なしで掲載できる。但し、運営交付金、科研費、学振経費など持っている場合は、(3) は適用されない。

非会員への依頼原稿や学会賞受賞者が執筆する研究紹介記事にはページチャージを適用しない。

会員への依頼原稿は、8 頁まではページチャージを適用しないが、9 頁以上の頁にページチャージが適用される。

ページチャージ額を示した概算見積書を初校と共に著者に送付するので、必要事項を記入して初校と共に返送すること。

### VIII. 電子付録

電子ジャーナル PDF 本文の補足資料として、表データ、図、説明文書を電子付録として岩石鉱物科学電子ジャーナルのウェブサイトにアップロードして公開することができる。  
補足資料は、PDF (推奨)、Word、Excel、EPS、Gif、またはTxt 形式で作成して、投稿原稿と一緒に提出すること。 なお提出は 1 論文につき最大 5 ファイルまで、ファイルサイズの合計は 25MB とする。場合によって ZIP ファイルも受け付けるが、その場合は、必ず編集事務に問い合わせをすること。

# 「岩石鉱物科学」編集規則 (2023年5月15日改正)

## 原稿の受付および保管

- 「岩石鉱物科学」の原稿執筆者は、原著論文・短報・討論の投稿には原則として会員が著者に含まれている場合に限るが、他の種類の原稿および編集委員会で承認された原稿はその限りではない。
- 原稿の投稿は電子メールによる添付ファイルでの投稿とし、投稿規程に定めるところに提出する。
- 原稿の書き方および投稿の手続きは別に定めた投稿規程による。
- 編集委員会は提出された原稿の受付年月日を記録し、原稿を保管する。
- 編集委員会は投稿規程に反する原稿については、これを受付せず著者に投稿規程にそよう修正を求めることができる。
- 編集委員会は討論を内容とした原稿を受付したときは、それを討論の対象となった論文の著者に提示し、なるべくその回答の投稿を求める。
- 編集委員会は会員および非会員に投稿を依頼することができる。
- 本会からの依頼によらないで、非会員のみを著者とする原稿が提出されたときは、その原稿は原則として受付されない。
- 掲載が認められた最終原稿は原則として著者に返却しない。

## 原稿の審査

- 編集委員長は原稿の種類を決定し、適任と思われる Associate Editor (以下担当編集委員) を編集委員会委員から選任し、査読に関する手続きを依頼する。担当編集委員は複数の会員あるいは非会員に原稿の査読を依頼し、査読者の判断にもとづき、その原稿の種類を決定し(総説、論説、短報、討論、資料・解説など)、掲載の可否を審査する。
- 担当編集者は掲載適当と認めた原稿について著者に修正を求めることができる。
- 担当編集者は掲載適当と認めた原稿に投稿規程に反する部分があったときは、内容の本旨を変えない範囲で投稿規程に沿うよう修正することができる。
- 担当編集者は査読の結果に基づき、掲載不適当と認めた原稿についてはその理由を付して著者に原稿を返却するとともに、編集委員長に不受理の理由を通知する。一旦、掲載不適当とされた原稿を改訂して投稿する場合は新規の投稿とする。
- 掲載不適当と認められた原稿の著者はその理由を了解できないとき、編集委員会に再審査を申し出ることができる。このとき担当編集委員はその経緯を明らかにして編集委員会にはかり、編集委員会はその責任で当該原稿の採否を審査決定する。

## 論文の掲載

- 論文の掲載の順は原則として受理の順とする。ただし編集委員会が必要と認めたときは変更されることがある。
- 会費その他本会に納入すべき経費を滞納している会員の原稿

はそれが納入されるまで掲載を延期されることがある。

## 校正

- 総説、論説、短報、討論および解説・資料の初校校正は原則として著者が行う。再校正以後は編集委員会の責任で行う。
- 発行の時間的制約が著しいときは著者による初校校正を略しすべての校正を編集委員会の責任で行うことがある。
- 校正のときに文章を書きかえることはできない。

## 「岩石鉱物科学」の内容

- 広い意味で岩石学・鉱物学・鉱床学およびこれらに関連するもの。
  - 原著論文(Original Article): 原著の研究論文で内容の主要な部分が学術論文としてほかに印刷公表されていないもの。
  - 短報(Short Note): 記載を主な内容とした短い論文、または新事実などの簡単な報告。
  - 総説(Review): 研究論文、学説などを独自の立場から総括したもの。
  - 解説・資料(Short Review & Scientific Communication): 新しい学説などを紹介、解説したもの。またはいくつかの研究論文や学説などを単に紹介、解説したもの。
  - 討論(Discussion): 本誌に掲載された論文についての学術的な討論。
  - 鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ (Key Points for Technical Skills in Analyzing Minerals and Experimental Works)
  - 最近の研究から(Recent Advances)
  - 日本新産鉱物情報(New Minerals and Occurrences in Japan)
  - 博物館紹介(Guide for Museums in Japan)
  - フィールド紹介(Field Guide for Mineralogical and Petrological)
  - 博士課程学生・若手研究紹介(Introductions to Students and Early Career Researchers)

- その他: 上にあげたもののほか、編集委員会が必要と認めた事項。

## 著作権

- 学会からの当出版物に掲載された会員の論文等の著作権は、一般社団法人日本鉱物科学会に帰属する。

本規則の変更は編集委員会の議決によるものとし、理事会に報告されるものとする。